



バグダッド 日誌 (12月5日)

○ スキンヘッド

- ・ 多国籍軍人達の髪型は当然のことながら、概して短い。日本で言うところの「空挺カット」が一般的である。天然か、人工の違いはあるが、約半数はスキンヘッドである。いずれも大半がシャワールームで自分で散髪している。私もその一人である。 [redacted] がスキンヘッドにしている。
- ・ バグダッドに来たら一度はやろうと思っていたことのなかの一つがスキンヘッドである。深い理由はないが、日本ではなかなかやりにくいことであるが、ここではさほど目立たないから、というのが理由である。なかなか思い切れずにいたが、昨日、シャワールームで自分で「剃った」。
- ・ 面白い反応をしたのは英国LOと米軍少佐だった。英軍LOは私を遠くから私を発見し、ずっと見ていた。接近するに従って「ニヤニヤ」しながら、目迎目送で出迎えてくれた。ニヤニヤしながら、「何かいつもと違う? ...何かいつもと違う? 何かいつもと違う?」を連呼していた。「似合うか?」と聞くと、「すごく似合う」といって、その後は何も言わない。ただ、ニヤニヤしていた。
- ・ 米軍少佐は、すごく驚いた顔をして、髪のない私に対して、「その髪型はどうしたの? 何かあったの?」と聞いてきた。(スキンヘッドも髪型って言うんだ)と思いながら、「似合うか?」と聞くと、「最初見た時はビックリしたけど、いいヘアスタイルだ。よく似合ってる。」との感想であった。
- ・ 数少ない女性の知り合いの一人は、ただ「ニコニコ」しながら、「元氣そうね」と一言いっただけだった。
- ・ 今朝、色々な軍人達の反応を観察した。概して英米人は、知り合いであれば理由を聞いたがるが一般に決してジッと見たりしない。髪型は軍の規則内なら個人の自由という印象である。旧ソ連圏を含むアジア系の軍人達はジッと見ながら、理由を聞いてくるのは約半数程度で、これもやはり個人の自由という印象であった。元々スキンヘッドの人たちはほとんど無反応という3種類くらいの反応があった。
- ・ コアリション事務所のLO仲間達は、みんな喜んでくれた。モンゴル大佐を含む大半は「素晴らしい。」とほめてくれた。スキンヘッドの5名は特にコメントなし。カザフとエル・サルバドルは、「俺らもやろうかな。」といいつつ、「カザフがやったらオレもやる。」、「エル・サルバドルがやったらオレもやる」とお互い言い合っていた。「なんなら、オレが二人とも剃ってやろうか?」というと、「ウン、こいつの次に」と言い合っていた。
- ・ しばらくは、シャンプー不要のこの「髪型」でいようと思う。

([redacted])